

Next challenge ～変動する時代への適応と深化～

◎学会長 江口 光徳¹⁾

一般社団法人 京都府臨床衛生検査技師会 / 宇治徳洲会病院¹⁾

現在急速に変化する医療環境において、臨床検査技師に求められる役割も大きく変わりつつあります。これまでの“正確で迅速な検査提供”という我々が今までやってきたことも大切ですが、その枠を超え私たちは今、“専門性を社会とつなぐ存在”としての自覚と行動も求められているのではないかと思います。

私は臨床検査技師として長年にわたり検査室の現場に携わると同時に、院内外での多職種連携、医療教育、さらには市民への啓発活動など、検査室外での活動にも積極的に取り組んできました。我々が行っている検査の意味や必要性を伝えることの重要性も強く感じ、専門知識を“伝える力”へと変換するチャレンジを重ねてきました。

本講演では、臨床検査の現場で培った経験と、そこから一步踏み出して得た学びや視点を振り返りながら、「Next challenge」に向けた実践のヒントを共有します。技術革新、働き方の変容、そして医療人としての社会的責任など、これらにどう適応しどう深化させていくかを考えていく時期ではないでしょうか。

臨床検査技師という職種の可能性は、検査室の中だけにとどまりません。むしろ、私たちが動き出すことで、新たな価値を生み出す余地は広がります。もちろん検査室内での業務も大切ですが、もっと「臨床」＝「患者さんのそば」に出ていくことも必要だと思います。本講演が、皆さま一人ひとりの「Next challenge」への気づきとなれば幸いです。